

挨拶

昭和56年 東京慈恵会医科大学卒業、大学院入学
昭和60年 慈恵医大大学院卒業、医学博士号授与、内科助手
カナダ・オタワ大学医学部・2年間留学
平成4年 北京大学ドイツ・マールブルグ大学にて招待講演
平成5年 東京慈恵会医科大学・内科講師
平成6年 カナダにて学会招待座長
平成8年 加藤内科クリニック開院・院長
平成15年 第1回守屋美喜雄賞受賞
平成18年 国際学会(IACS)でシンポジウム企画座長

日本糖尿病学会専門医・指導医/日本糖尿病学会評議員/東京都糖尿病協会理事/葛飾糖尿病医学会会長/ヨーロッパ糖尿病学会会員/日本循環器学会認定専門医/日本循環器学会地方会・評議員/日本適応医学会・評議員/日本内科学会認定医/日本医師会認定スポーツ医/前 Human and Experimental TOXICOLOGY 編集委員他



加藤 光敏

実行委員長として昨年より検討し、本年も重厚な、伝統ある九段会館大ホールで開催となりました。多くの方々の参加を期待しております。

さて私が医師になって間もない頃から、大学病院で多くの心筋梗塞・脳卒中といった大血管の障害の患者さんを治療してきました。このような大血管障害は糖尿病患者さんに多いことを実感し、何とかしなければと思いつけてきました。当時からみれば、年月を経て医学も発展し、「糖尿病の予備群から血管を守る重要性」が多くの証拠によりはつきりしました。そこで今回のテーマを「末梢血管・心臓を糖尿病から守る」にしたのです。

健康診断などで予備群とか、境界型糖尿病と言われていた方の多くが、気軽に考えてしまうのではないのでしょうか？しかし DECODE(デコード)と名付けられた研究で、ブドウ糖負荷試験での2時間値が200mg/dlと高い方は死亡率が2倍になることが示されました。これは食後血糖が高い方は、心筋梗塞などのリスクが大きいと読み替えられる重要な結果です。

糖尿病と確定診断される前から動脈硬化は始まっています。従って糖尿病になってから血糖値を正常範囲まで下げただけでは、心筋梗塞などの危険性が減らないのは、このような理由があるのです。またこれに、少し血圧が高い、少し中性脂肪が高いなど、他のリスクが集まると動脈硬化の危険は高くなります。

ましてや糖尿病歴が長ければ脳梗塞・心筋梗塞の危険がさらに高まっています。それでは糖尿病の方、まだ糖尿病でなくとも予備群と言われた方はどうすればよいのでしょうか？今回はこの答えが講演の中で見つかるような演者の先生方を選びました。

特別講演は、大迫研究で世界的に有名な今井潤先生に「なぜ血圧は正常にしなければならない？」というタイトルでお願いしました。糖尿病患者さんは家庭血圧測定などにより、厳格な血圧コントロールがなぜ是非とも必要なのかについてご講演いただきます。当院でも約40名の患者さんがHOMED-BP研究という家庭血圧を測定する全国規模の研究に参加していますが、それが家庭血圧測定を大切にすることになったきっかけです。現在多数の患者さんが朝家庭で血圧測定をして、厳格な血圧コントロールを目指していますが、まさに今井先生のおかげです。座長は貴田岡正史先生にお願いしましたが、偶然にも大迫研究のま

さにその場所で中学生まで過ごしたとのことでした。

続いて「腎臓が悪いと心臓病に十分注意しなければならない」ということで話題になっている「慢性腎臓病(CKD)」に関して、糖尿病腎症を研究されている宇都宮一典先生にお願いしました。「メタボリックシンドロームと血管の病変」という話題は、最新の研究も折り込み綿田裕孝先生に。次に「食後高血糖から心臓を守るためにはどんな食事療法に気をつけたらよいか」を加藤則子先生。さらに今回のトピックスの一つとして、「血糖コントロール不良の原因の一つが歯周病」であることに関し、最新の考え方を元に歯科治療を実践している歯科医の康本征史先生にご講演をお願いしました。

一般講演の座長は、糖尿病診療の経験豊かな、宮川高一先生と水野有三先生にお願いしました。講演の終わりには会場からの質問用紙をもとに、質問に対する回答と、それに関しての具体的な話を演者の先生方から聞けると思います。

糖尿病は全世界で増加の一途をたどり、網膜、腎臓、末梢神経とたちの悪い合併症を引き起こすことはご存じのことと思います。これだけマスコミが糖尿病の恐ろしさを伝えているのに関わらず、最近来院した40歳台の患者さんは、増殖網膜症でした。この方は7年前網膜症がなしと診断されています。残念なことに7年間自己判断で通院を中断していたのです。

いまだこのような患者さんは少なくありません。しかし日本の場合、全体としては糖尿病網膜症による失明は減少の兆しが見えてきました。きちんと生活習慣の改善に努力し、通院している方を中心に一部の合併症ではありますが、減少傾向が見えてきたことは患者さんだけでなく、我々も大いに勇気づけられます。

あとは本日のテーマである心筋梗塞・脳卒中といった大血管症からいかにして自分自身を守るかです。患者さんと、医師・メディカルスタッフが丸となって糖尿病学を学び、治療をしていきましょう！

本日お集まりになった聴衆の方々に感謝し皆様のご健勝をお祈りいたします。また座長・演者の先生方、ボランティアの方々、そして共催いただいた武田薬品工業(株)、バイエル薬品(株)の両社に、厚く御礼申し上げ、実行委員長の言葉とさせていただきます。